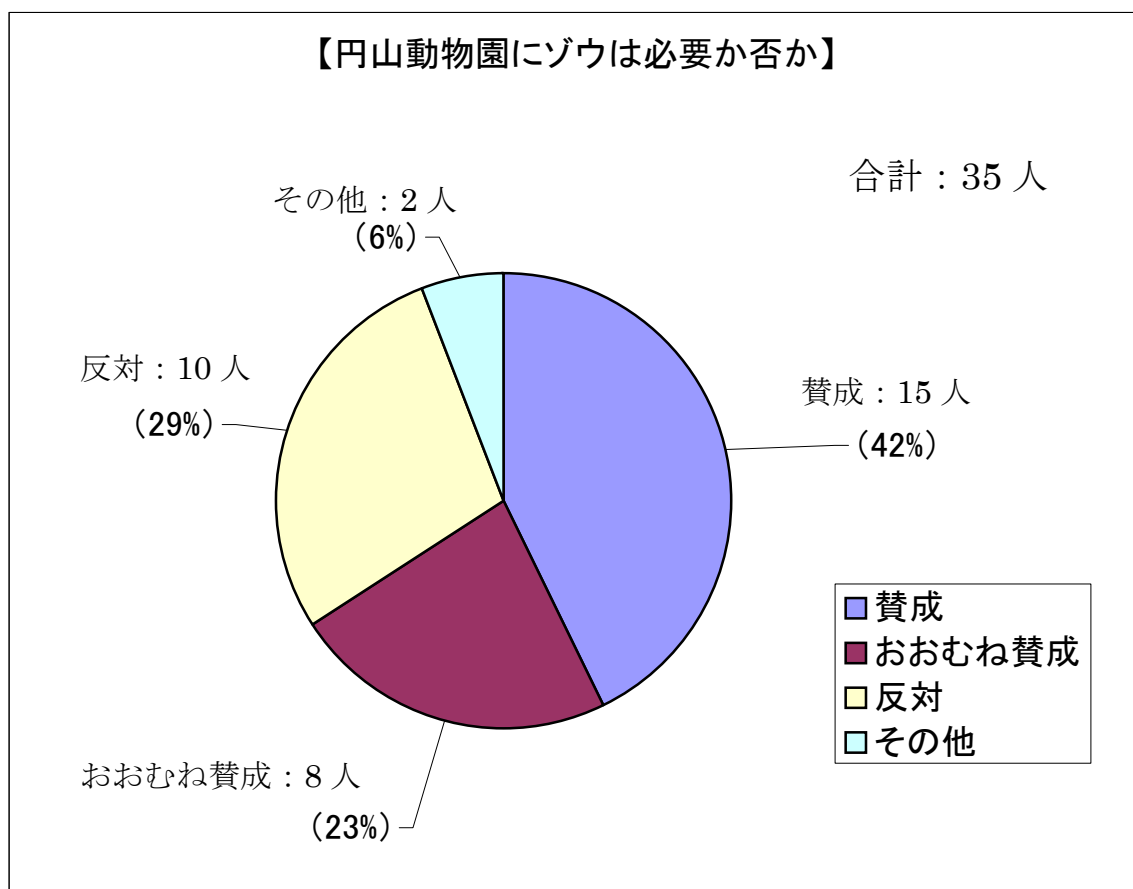


総) 広報部 市民の声を聞く課

「市長と“おしゃべり”しませんか」アンケート集計結果

【概略】

「円山動物園にゾウは必要か否か」をテーマに、2月2日(土)に円山動物園で開催された平成19年度第4回「市長と“おしゃべり”しませんか」。グラフは、当日参加した学生を対象に実施したアンケートの集計結果である。



「賛成」と「おおむね賛成」を合わせると、参加した学生の 65%が円山動物園にゾウを入れることに賛成している。

「賛成」の意見の中では、「環境問題を考えるため」、「子どものため」といった理由が多かった。

【例】

- ① 最初はゾウは必要ないと思ったが、ゾウという生き物の存在感や環境問題について、たくさんの人たちに伝えていくために必要な存在ではないかと感じた
- ② これから社会を担っていく子どもたちのためにも、ゾウは必要だと思う
- ③ 子どもたちに身近でゾウを見てほしい
- ④ 種の保存にもつながると思うので、ゾウを入れてぜひ繁殖させてほしい

「おおむね賛成」とは、財政面や飼育面での課題をクリアできるのであれば、ゾウを入れること

に賛成するという意見である。

【例】

- ① ゾウをただ展示するのではなく、見る人の知識が増えるような展示の仕方をしてほしい
- ② 資金面やゾウの飼育スペースや餌の管理の問題が解決できるのであれば、ゾウを入れてほしい
- ③ 間接飼育ではなく、準間接飼育をしてほしい
- ④ 繁殖だけで終わるのではなく、野生に戻すということに重点を置いて飼育してほしい

一方、「反対」の主な意見としては、財政面での負担から反対する意見が多かった。

【例】

- ① ゾウを飼育するためのお金があるなら、市民の生活にお金を回してほしい
- ② ゾウの繁殖をすることが目的ならば、成功例の多い国外の動物園に任せるべき
- ③ ゾウを入れる前に、円山動物園にいる他の動物の飼育環境を改善したほうが良い
- ④ ゾウ以外で、他の動物園では見ることができない動物を入れたほうが良い

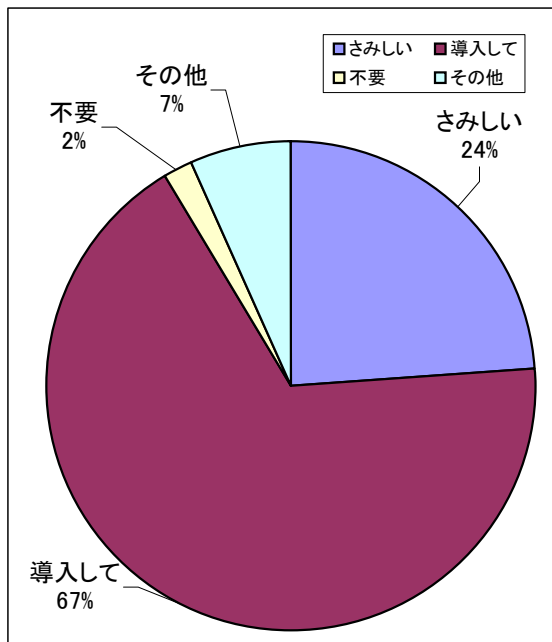
なお、ゾウを入れることに対して賛成・反対の意見がないものについては、「その他」の意見として集計した。内容については以下のとおりである。

- ① ゾウを入れるまでに要する費用を教えてください
- ② 海外からゾウを連れてきた場合、ゾウにストレスがかからないのか

ゾウに対する意向(別紙)

資料3-1
第5回会議

データの個数 / ご意見		意向				総計
性別	年齢	1:さみしい	2:導入して	3:不要	4:その他 (空白)	
女	～9歳	5	34		2	41
	10歳～	12	25		2	39
	20歳～	1	8		1	10
	30歳～	12	10	1	2	25
	40歳～	4	2		2	8
	50歳～	1	2			3
	60歳～	2	5	1		8
不明	2	2		1	3	
女 集計		37	88	2	10	137
男	～9歳	2	11		1	14
	10歳～	5	20	1	1	27
	20歳～	1	3		1	5
	30歳～	1	6			7
	40歳～	2	5	1		8
	50歳～	3				3
	60歳～	1	2		1	4
不明	1	1			1	
男 集計		15	48	2	4	69
不明	～9歳	1	3			4
	10歳～		5			5
	20歳～		1			1
	30歳～		1			1
	60歳～		1			1
不明		3		1	4	
不明 集計		1	14		1	16
(空白)						
(空白) 集計						
総計		53	150	4	15	222



さみしい	53
導入して	150
不要	4
その他	15

■ゾウの導入について

1. 円山動物園の歴史とゾウ

戦後の荒廃がまだ市民の心に残っていた 1950 年（昭和 25 年）、札幌市は上野動物園（東京）から移動動物園を招きました。会場の円山坂下グラウンド、そして円山公園一帯は空前の人手で賑わい、人々は動物達に夢中になりました。

この移動動物園の大成功を受けて、「札幌市に動物園を」という声が急速に高まり、1951 年（昭和 26 年）のこどもの日に北海道では初めて、全国では 10 番目の動物園として開園しました。

「花子」は、1953 年（昭和 28 年）7 月に「世界動物博覧会」の会場であった長野県から開園まもない円山動物園にやってきました。当時の推定年齢は 7 歳でした。

市民の大歓迎を受け、12,000 通の応募の中から「花子」と命名され、たちまち人気者になりました。1961 年（昭和 36 年）には 3 歳の「リリー」も来園し、以来、いつも一緒に過ごす仲の良さでした。1997 年（平成 9 年）7 月に「リリー」が亡くなり、一時、元気を失った「花子」でしたが、やがて回復し、健やかに年齢を重ね、2006 年（平成 18 年）7 月には国内でも 2 番目の長寿ゾウとして市民から還暦のお祝いも行われました。しかしながら、2007 年 1 月 28 日に「花子」は推定 60 歳という長寿を全うし天国に旅立ちました。「花子」は常に円山動物園のスターとして君臨し続け、数々の逸話をつくりました。

2. 市民議論が必要な理由

ゾウは世界的にも希少動物で単に展示する目的で導入することは不可能です。ワシントン条約に基づき繁殖や野生生物の保護を目的とした導入でなければなりません。ゾウは本来群れで生活する動物で、例えば子どもが生まれた場合にも群れで育てる習性を持っています。子ゾウの育児に複数のメスゾウが協力し合います。

導入するとしてもオス 1 頭にメスを複数頭の群れで飼育する必要があります。このため頭数に見合った広い動物舎と屋外放飼場が必要になります。現在のゾウ舎では、環境省の飼育許可は不可能です。

また、国内の動物園での飼育頭数が少ないことと余剰がないことから国内で入手することは困難で、必然的に海外から輸入することになります。このようなことから、新たにゾウを導入するにはゾウを輸出する国との話し合い、ゾウ舎建設及びゾウ購入費用の調達に時間がかかります。

円山動物園として、将来は是非ゾウを飼育し市民に見て欲しいと考えていますが、実現するためには、大きな負担を前提とした市民の同意が必要です。

3. 国内外の動物園の状況

(1) 野生の状況

ア. アジアゾウ生息数 35,000～50,000 頭（1998 年）

イ. アフリカゾウ生息数 約 660,000 頭（2002 年）

(2) 国外の動物園飼育状況

ア. アジアゾウ

・アメリカ オス 48 頭 メス 237 頭 計 285 頭（2000 年）

・ヨーロッパ オス 49 頭 メス 217 頭 計 266 頭（1999 年）

イ. アフリカゾウ

・国際登録状況 なし

(3) 国内の動物園飼育状況

ア. 飼育状況

- ・アジアゾウ 36園 オス 15頭 メス 51頭 計 66頭 (2008年 11月現在)
- ・アフリカゾウ 24園 オス 9頭 メス 41頭 計 50頭 (2008年 11月現在)

イ. ゾウの繁殖 (アジアゾウ)

- ・2007.5.3 市原ぞうの国 (メス)、
- ・2007.10.21 神戸市王子動物園 (メス)

ウ. ゾウの死亡 (2008年)

アジアゾウ

- ・王子 (メス・スワコ 65才国内最高齢)、とくしま (オス)、浜松 (メス)

アフリカゾウ

- ・釧路 11.9 メス・ナナ 36才
(旭川 2006.4.21、円山 2007.1.28、1999. 7.8 死亡)

エ. 道内の飼育状況 (アジアゾウのみ)

帯広市動物園 メス 48才

4. ゾウの導入実績

(1) 名古屋市東山動植物園 (現在の飼育頭数オス 1、メス 2)

2007年 7月 オス・メス各 1頭

インド・デヒワラ動物園から寄贈 (実質 動物交換 クロサイ)

経費 輸送費のみ 約 1000万円 (飛行機輸送)

(2) 沖縄こどもの国 (現在の飼育頭数オス 1、メス 1) ※導入計画から 4年を経て実現

2007年 12月 オス・メス各 1頭

インド・ダーズリン動物園から寄贈 (実質 動物交換 ヒマラヤンタール)

経費 輸送費込み 約 4000万円 (うち地元電力会社寄付 3000万円) (飛行機輸送)

2007年 2月 ゾウ舎建設 約 1億 7千万円 ※別紙設計図

建物 462.58 m² パドック 595 m²

その後パドックを増設 639 m² (合計 1234 m²) 約 360万円

(3) 福岡動植物園 (現在の飼育頭数メス 2、今後オスを導入予定) ※別紙パース

20年度 ゾウ舎建設中 (444 m²) 予算 3.2億円

21年度 パドック造成 (約 1000 m²) 予算 4.5億円

(4) 上野動物園 (現在の飼育頭数オス 1、メス 4) ※別紙パンフ

16年 4月 ゾウ舎完成 総事業費 13億円

建物 735 m² (延べ 1330 m²) パドック 2170 m²

(5) 天王寺動物園 (現在の飼育頭数メス 2) ※別紙パンフ

15年 10月 ゾウ舎完成 総事業費 13億円

建物 584 m² (延べ 707 m²) パドック 3616 m²

ゾウ導入への夢のシナリオ

※この「夢のシナリオ」は、円山動物園にゾウを導入するとした場合に、どのような段階が必要になるかを仮にシミュレーションしたものであり、現時点において導入を前提とした以下の検討をしているわけではありません。

検 討	工 事	市民議論
導入可能なゾウ探し		市民アンケート実施
アジア、ヨーロッパ施設調査		導入決定・基本計画改訂
輸出国との交渉		「花子募金」開始
(アジア館竣工*、動物引越)	新ゾウ舎基本設計	
環境省との調整 (ゾウ舎の承認)	新ゾウ舎詳細設計	
(アフリカ館竣工*、動物引越)		
新ゾウ舎建設開始	1 期工事 (寝室・産室)	公募債の発行
飼育技術研修 (アジア、ヨーロッパ)	2 期工事 (屋内パドック)	
現地飼育員導入、 オス・メス各 1 頭導入	3 期工事 (屋外パドック)	
メス 1 頭導入	新ゾウ舎オープン	
順次、メスを導入 4~5 頭体制へ		

*アジア館、アフリカ館の工事竣工時期は基本計画上では平成 23 年度以降の未定となっています。